



株式会社

セブン-イレブン・ジャパン



サステナビリティ アクションブック

2020-2021

～持続可能な社会をめざして～



この印刷製品は、環境に配慮した
資材と工場で製造されています。

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



Printed in Japan



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

セブン-イレブンは、さまざまな取り組みを通してSDGs達成に貢献してまいります





セブン-イレブンはなぜ、
「サステナビリティ」をテーマとした活動に
取り組むのでしょうか。

お店にかかわる人とともに
歩み続けたいから。



代表取締役社長
永松 文彦

— 私たちは いかなる時代にもお店と共に あまねく地域社会の利便性を追求し続け
毎日の豊かな暮らしを実現する —

セブン-イレブンは、この企業理念のもと、日々お客様のニーズの変化を捉えた商品や
サービスの開発・提供に努めております。

一方で、国内2万店を超えるチェーンとして、地球温暖化や自然災害の増加、資源の枯渇、
また食の安全・安心や高齢化社会などの社会課題に対しても、私たちは大きな責任と
役割を担っていると認識しております。

1日1店あたり約1,000人ご来店くださるお客様、全国の加盟店オーナー様と従業員の
皆さま、また多くのお取引先様に支えられているセブン-イレブンは、すべてのステーク
ホルダーの皆さまとともに課題解決への歩を前に進め、「利便性」や「豊かさ」を持続可能な
かたちにしていく使命を果たしていきたいと考えております。

2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により、これまでの生活様式や働き方に対する
変化への対応が求められ、新たな社会の在り方が構築されるなか、セブン-イレブンは、
今後もいかなる変化にも対応し、「サステナビリティ」を経営の優先課題と捉え、事業を
通じた社会課題の解決に全力で取り組んでまいります。





What

「サステナビリティ」のために、セブン-イレブンはどんなことをしてきたのでしょうか。

挑戦し続けるのは、明日をもっと豊かにしたいから。

1970- 1980- 1990- 2000- 2010- →

創業の理念は「既存中小売店の近代化と活性化」「共存共栄」

消費者の購買意欲が高い「売り手市場」から消費者がモノを選ぶ「買い手市場」へ

少子高齢化、女性の社会進出などによるライフスタイルの変化

買い物やサービス拠点の減少などで生活に不便を感じる方が増加

お客様のニーズに応えるお店から地域社会の要請や社会課題に応える生活インフラへ

1974 | 新たなビジネスモデルを構築
第1号店の誕生(豊洲店) ①
日本初のフランチャイズ方式によるコンビニエンスストアのチェーン展開を開始

1982 | お客様のご要望に応えるために
POS(販売時点情報管理)システム導入
いち早くPOSデータを活用し、発注精度の向上による品切れ防止など、単品管理を推進

1993 | 環境への取り組み
「セブン-イレブンみどりの基金※」を設立 ②
加盟店と本部が一体となって「環境」をテーマに社会貢献活動に取り組むことを目的に設立

※ 現(一財)セブン-イレブン記念財団

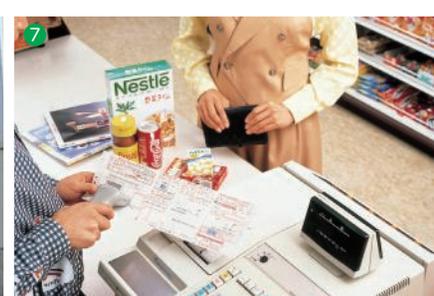
2001 | 安全・安心を追求
保存料・合成着色料ゼロを実現
専用工場の高い品質管理により、保存料・合成着色料を使用しないフレッシュフードの商品開発を実現

2019 | 持続可能な未来のために
『GREEN CHALLENGE 2050』⑨
セブン&アイグループの環境宣言にもとづき、サプライチェーン全体で環境負荷低減を推進

1976 | 環境負荷低減と業務効率化
共同配送の実現 ⑥
異なるメーカーの商品を同じ車両で配送するという流通業界の常識を破る共同配送を実現

1987 | ライフスタイルの変化に対応
公共料金収納代行サービスを開始 ⑦
バーコード読み取りによる24時間支払い可能なサービスを開始。公共料金の支払いが手軽に、便利に

2011 | 買い物の不便を解消
「セブンあんしんお届け便」開始 ⑧
出店の難しい地域で、お買い物に不便を感じている方へサービスを提供するため、移動販売車両を開発





太陽光パネルの設置



環境配慮型車両の導入



店頭でのペットボトル回収



100%再生PET樹脂使用ボトル



一部の容器をプラスチックから紙素材に



認証ラベル付き商品の販売

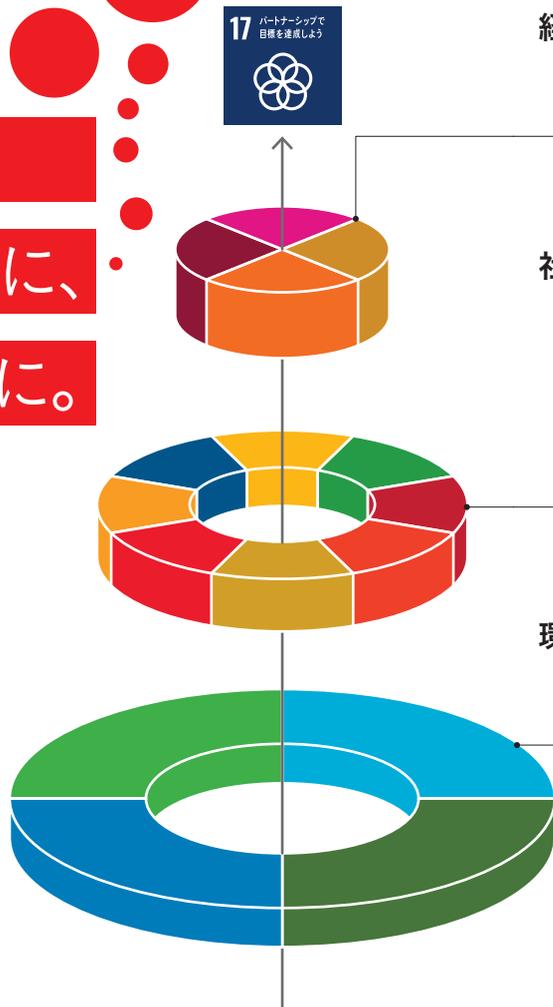
HOW

どのように取り組みを「進化」させていくのでしょうか。

SDGsの達成をめざして、
10年後の毎日をもっと豊かに、
社会と地球をもっと健やかに。



取締役 執行役員
サステナビリティ推進室長
渡辺 良男



経済

- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 12 つくる責任つかう責任

社会

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 16 平和と公正をすべての人に

環境

- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさも守ろう

サステナビリティ活動のキーワード、「SDGs」

サステナビリティ活動を推進していくうえで世界的に重要な観点となっているのが、2015年の国連サミットで“誰一人取り残さない”というキーワードとともに採択された「SDGs: Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」です。SDGsには、気候変動や貧困、経済成長と雇用など、世界全体で取り組む2030年までの17の目標と、それを達成するための169のターゲットが設定されています。この17の目標は、「経済」「社会」「環境」というテーマに分類できます(図)。経済の発展には安定した社会が必要であり、安定した社会を築いていくためには豊かな地球環境が不可欠です。こうした関係を持続可能なかたちにしていくために政府や企業、教育機関などあらゆる組織がパートナーシップをもとに協力し、誰もが安心して暮らせる豊かな社会を築くこと。それがSDGsです。

ステークホルダーの皆さまとともに

私たちセブン-イレブンは、SDGsの17のゴールをめざすとともに、常に世の中の変化に対応し、「近くて便利」という価値を“持続可能な価値”にしていきたいと考えています。“あらゆるステークホルダーに信頼される誠実な企業でありたい”というグループの社是を根幹に、社員一人ひとりが「どのような課題を解決すべきなのか」を真剣に考え連携し、一丸となって実現していきます。ステークホルダーの皆さまと信頼関係をより強固にし、変化し続ける社会の期待・要請を受け止め、取り組みを進化させてまいります。



シニア向けお仕事説明会



伝統産業振興への協力



セブンなないろ保育園



海ゴミゼロウィークへ参加



移動販売による買い物支援



社会福祉協議会との連携

加盟店の皆さまとともに
重点課題を共有しながら
社会課題解決をめざしています。

地域に根ざした
生活インフラとして

多様なお客様との
接点を持つ特長を
活かして

高齢化、
人口減少時代の
社会インフラの提供

お客様、お取引先を
巻き込んだエシカルな
社会づくりと資源の
持続可能性向上

5つの
重点課題

商品や店舗を通じた
安全・安心の提供



社内外の女性、若者、
高齢者の活躍支援

商品、原材料、
エネルギーの
ムダのない利用

全国展開する
スケールを活かして

セブン&アイグループは、事業領域が拡大し、関係する社会課題や社会要請が多様化するなか、ステークホルダーの皆さまの期待や要請にお応えするため、「5つの重点課題(マテリアリティ)」を特定しました。セブン-イレブンは、その重点課題を踏まえ、SDGs17のゴールに含まれる「環境」「社会」「経済」という側面から、コンビニエンスストアとして本業を通じたさまざまな社会課題の解決に取り組んでいきます。



環境

活動ハイライト1

地球環境のために

P.9

- 食品ロスの削減
- プラスチック対策
- セブン-イレブン記念財団との活動
- ISO14001の取得

関連するSDGs



社会

活動ハイライト2

災害時の安心と便利のために

P.11

- コロナ禍での対応
- 豪雨対応

活動ハイライト3

地域の安全・安心のために

P.13

- 社会福祉協議会との連携
- セブンあんしんお届け便
- セーフティステーション活動
- 地域社会との連携

関連するSDGs



経済

活動ハイライト4

持続可能な店舗経営のために

P.15

- 省人化プロジェクト
- 人財育成
- CO2排出量削減
- CSR監査

関連するSDGs



関心が高まる “食品ロス”に真っ向から挑む。 お店と社会の力になるために。



北見地区 OFC

南部 さん

※ OFC: オペレーション・フィールド・
カウンセラー(店舗経営相談員)



以前から、私が担当するお店では販売期限切れによる商品廃棄が課題でした。利益を圧迫することもそうですが、食品を捨てるのは心が痛いもの。そこで、何とかお店の力になろうとエシカルプロジェクトの開始をきっかけに“食品ロス”に真正面から向き合い、取り組みを進めてきました。試行錯誤を繰り返しながら、商売の基本に立ち返り、オーナー様と商品1品ごとの動きをデータで検証し、時間帯ごとの商品の発注数を見直しました。従業員さんもお客様へのお声がけを熱心に続けてくださって、すると、商品廃棄が徐々に減っていったのです。最近は食品ロスに関心を寄せるお客様も増え、エシカルプロジェクトの意義や影響力を実感しています。お客様やお店の皆さんに喜んでいただき、社会にも貢献できれば、こんなにうれしいことはありません。入社して15年。OFCの仕事に、これまで以上に大きな使命とやりがいを感じています。



<https://www.sej.co.jp/csr/environment/ethical.html>
インタビューの続きはWEBで

セブン-イレブンの取り組み

食品ロスを削減する「エシカルプロジェクト」を全国で展開

まだ食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」。SDGs目標12「つくる責任 つかう責任」では、小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食品廃棄物を2030年までに半減させることをめざしています。セブン-イレブンでは、販売期限が近づいたおにぎりやパンなどの対象商品を、電子マネーnanacoで購入したお客様に、税抜販売価格の5%分のボーナスポイントを付与する「エシカルプロジェクト」を2020年5月から全国で展開。取り組みにご賛同いただいたお客様を対象商品をお選びいただくことで、販売期限切れによる食品ロスを減らす取り組みです。



販売期限が近づいた対象商品に貼付するエシカルシール。「おトク」と「環境配慮」の目印です。

オーナーさんから

食品ロスを知るきっかけづくりを

食品ロスは社会全体の課題。当店はエシカルプロジェクトを経営改善だけでなく、お客様や地域の方々が食品ロスを知るきっかけにしたいと考えています。中学生の職場体験受け入れ時などにも、積極的に発信していきたいですね。



北見桜町店 オーナー
前岡 様

TOPICS

全国各地で 森林や海の保全活動を継続

加盟店と本部がともに行う環境保全活動の一つに、一般財団法人セブン-イレブン記念財団が各地で進める「セブンの森」づくりがあります。全国の行政、NPO法人などと17カ所で協定を結び、加盟店や地域市民とともに活動しています。2019年度は25回開催し、延べ3,153人が活動に参加しました。

地域の皆さまとリサイクルを推進

加盟店やお客様、地域の皆さまと協力し、店頭のパペットボトル回収機でペットボトルを回収。再度資源として活用し、100%再生PET樹脂使用ボトルを用いたオリジナル商品セブンプレミアム「一(はじめ) 緑茶」シリーズ4商品を販売しています。プラスチックごみの削減に向け、参加型のリサイクルを展開しています。

2020年8月末現在：パペットボトル回収機設置数407台

環境に配慮した事業運営のために 国際的な認証を取得

本部と全国の事務所、全国の直営店を対象に、2014年から国際規格のISO14001を取得しています。例えば、商品製造では、原材料の調達から商品開発・製造、配送、販売、消費、処分までの過程や事務作業等で発生するあらゆる環境負荷の低減を図るなど、各部門が業務を通じた効果的な活動を考え、取り組んでいます。

頻発する自然災害や 感染症の拡大から立ち上がるための 回復力 レジリエンスという価値を。



2020年3月半ば、
コロナ禍で空になったマスクの売場を見た時、
私は「このままでは従業員が誰も出勤してくれなくなるのでは」という恐怖を感じました。
この店は、店長やマネージャーを中心とした
スタッフ間のチームワークで成り立っているからです。
「従業員を守らなくては」——
そんな想いをもとに、勤務中に着用するマスクの確保に奔走し、
本部からの支援もあり、4月下旬頃ようやくマスクを確保しました。
ありがたいことにスタッフは
ほぼ全員、いつも通りのシフト勤務に協力してくれました。
また「お客様を守ろう」と
自発的にシフトの引き継ぎノートを活用した消毒のコツ紹介など、
さまざまなアイデアを出し、実践してくれました。
新型コロナウイルスの影響はこれからも続くと思いますが、
スタッフ同士のコミュニケーションが機能している限り、
柔軟に対応していけるのではないかと。
そんな小さな自信を持つことができました。

江戸川西一之江3丁目店 オーナー
木村 様

セブン-イレブンの取り組み

コロナ禍での安全・安心・健康を最優先とし、 感染リスクの低減や加盟店支援策を実施

2020年2月7日に「感染リスクの低減や、人命・安全を最優先する」という基本方針のもと、「新型コロナウイルス対策本部」を立ち上げさまざまな対策を行ってきました。
店舗における感染拡大防止への対応策

- 出勤前の検温、勤務中のマスク着用、多頻度での手洗い、手指消毒
- 店舗入口にお客様用除菌スタンド、おでん鍋前に透明アクリルカバー、レジカウンターに間仕切りシートを設置、レジ待ち間隔の確保 など

加盟店への支援

- マスク、使い捨て手袋、非接触型体温計などの配付
- 加盟店への特別感謝金(10万円/店)
- 従業員特別感謝手当(クオカード6万円/店) など

今後も「安全・安心・健康」を最優先とした対応を図っていきます。



https://www.sej.co.jp/csr/sdgs/02_01.html
インタビューの続きはWEBで



アサヒロジスティクス株式会社
常温共配横浜緑センター 運行リーダー
足利 様

コロナ禍による「巣ごもり需要」が押し寄せた3月後半。
多忙を極めながらも、危機の時ほど「使命感を持つチーム」が
強みを発揮することに気づかされました。
私たちは、「物流を止めない」チーム。
お互いに予防策をチェックし合いながら配送にあたりました。
そんな時、お店の従業員さんからの
「こんな大変な時に、頑張って届けてくれてありがとう！」
という声がどれほど私たちを勇気づけてくれたか…。
「接客を止めない」使命感を持った従業員さんのチームに
私たちも支えられてきました。
そんな「チーム・セブン-イレブン」の一員である喜び、誇りを胸に
これからも安定供給をめざしていきます。

水害で営業停止を余儀なくされたお店の復旧を手伝ってほしい。
——要請を受けた翌朝、私は社員とともに現地にいました。
過去の豪雨災害の経験を踏まえて準備したことが幸いして
工事は予定通り終了しましたが、
降り続く雨による二次災害の不安や高速道路の通行止めによる
往復5時間の通勤などの苦労もありました。
そんななかでも1週間で営業再開できたのは
セブン-イレブンの生活インフラを守る強い使命感と
社会インフラを守る私たちの使命感が共鳴したからだと思えます。
これからもセブン-イレブンとともにノウハウを積み重ね
安全かつ回復力のある街づくりに貢献していきたいと思えます。



大坪建設株式会社 代表取締役専務
大坪 様

PICK UP

地域食材の生産者・事業者を応援するプロジェクトを開始

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、全国的に給食や外食需要が落ち込むなか、セブン-イレブンは2020年5月、「地域の食材を使おうプロジェクト」を立ち上げ、全国8つのエリアで地産地消に向けた地域限定商品を販売し、生産者・事業者を応援しています。東北エリアでは、秋田県の協力を得て特産品である「比内地鶏」を活用したオリジナル商品を開発し、販売しました。



地域社会に 根ざした取り組みを 地域の人々とともに 共創する。

埼玉県社会福祉協議会
生活支援部生活支援課
印南 様



社会福祉法人の皆さんから

寄贈品がつながりを育むきっかけに

これまで交流のなかった福祉施設にもお声かけをして配分会を実施し、皆さんから喜びや感謝の声をいただきました。今回の寄贈をきっかけに、改めて地域社会の日常的なつながりの大切さを実感しています。



社会福祉法人 ささの会
熱田 様、大出 様、佐藤 様

セブン-イレブンの取り組み

埼玉県、埼玉県社会福祉協議会とともに 生活困窮者への支援を実施

セブン-イレブンは、埼玉県との地域包括連携協定※にもとづく活動の一環として、2019年から社会福祉団体などに店舗改装などで発生する在庫商品の寄贈を実施しています。この取り組みは、埼玉県社会福祉法人社会貢献活動推進協議会（推進協）が実施する「彩の国あんしんセーフティネット事業」をベースに、困窮しながらも生活保護や介護保険の対象外となる“制度のはざま”に取り残された方を支援する活動です。セブン-イレブンは、事業の事務局を担う県社協と連携しながら、食品や日用品などをお届けしています。

※ 地産地消や子育て・高齢者支援、観光振興、防災、環境保全などの活動を地域社会とともに推進するため、全国の各自治体と地域包括連携協定を締結。現在、183自治体（43道府県140市区）と協定を結んでいる（2020年2月末現在）。

ひっ迫した困窮状態の方に現物給付による支援を行う「彩の国あんしんセーフティネット事業」。その活動に協力したいとセブン-イレブンからお話をいただいたのは2018年の夏頃でした。ぜひ実現しようと思気込んだ私でしたが、商品の受け入れから手渡しするまで、関係者のご負担に配慮しながらスムーズに実施するためにはどのような仕組みが必要か随分と悩みました。そこで、現場の実情を反映した「手引き」を作成しようと考え、施設・社協を訪問し、現場の皆さまの意見を丁寧に聞き取っていきました。セブン-イレブンの想いを仕組み化し、苦しんでいる方々に笑顔を届けるのが私の使命、という気持ちで何とか手引きが完成、スムーズに運営できる体制を整えることができました。——それから2年。活動は今関係者の皆さまの努力で、多くの方々から感謝の声をいただくまでに育っています。県社協のキャッチフレーズである「つながりをチカラに」を大切に、これからもさまざまなパートナーと協働していきたいと思ひます。



https://www.sej.co.jp/csr/sdgs/05_01.html
インタビューの続きはWEBで

TOPICS

移動販売サービス 「セブンあんしんお届け便」を全国展開

2011年から、専用のトラックで日常のお買い物に不便なエリアや移動手段にお困りのご高齢の方が多い地域を中心に巡回する移動販売サービス「セブンあんしんお届け便」を展開しています。常温の商品から冷凍品までのさまざまな食品や、日用品を150アイテム以上販売しており、2019年11月には1都1道2府32県で100台となりました。

安全・安心を見守る街の拠点として セーフティステーション活動を推進

（一社）日本フランチャイズチェーン協会に加盟するすべてのコンビニエンスストアと協力して、女性や子どもの駆け込み、ご高齢の方の保護などへ対応する活動を推進しています。

- 高齢者保護 5,098店 7,224回以上
- 女性の駆け込み 2,478店 3,154回以上
- 子どもの駆け込み 1,527店 1,984回以上
- 特殊詐欺（振り込み詐欺等）の抑止 4,214店

出典：（一社）日本フランチャイズチェーン協会「セーフティステーション活動」アンケート調査結果（2019年度）

伝統産業振興の取り組みと 障がいのある方の活躍支援

セブン-イレブンは、地域の民間団体や教育機関と連携した活動を推進しています。京都市では、若手染物屋グループが製作した「京友禅」のスマホ拭きを市内一部店舗で販売。調布市では福祉作業所などで障がいのある方がつくった焼菓子などを市内直営店舗で販売。店舗で商品に触れる機会を増やすことで、文化の継承や地域で働く人を応援します。

お客様はもちろん、 従業員さんからも愛される 持続可能なお店になるために。



省人化プロジェクトメンバー
町田玉川学園5丁目店
細井さん



省人化プロジェクトで何より大切にしているのは、
お店の従業員さんとの
“オープンなコミュニケーション”を図ることです。
新しい設備を導入する時には、
使用した感想や意見を積極的に聞いたり、
遠慮がちな方の意見も引き出せるよう、
自由に感想を書き込めるボードを置いたり——。
「もっとこうした方が良い」といった
ストレートな意見をぶつけてもらった時には、
フィルターをかけずに、そのまま開発部門にフィードバックしています。
現場で実際に使用する従業員さんが「使いやすいこと」が
最も重要だと考えるからです。
私は本部のプロジェクトに所属していますが、
“お店の一員”としてここにいます。
働く環境をより良くするため、
小さな不満も聞き逃さないように意識をして、
常に従業員さんと二人三脚で取り組んでいこうと考えています。
目標は店舗で働く従業員さんから
「このお店が好き」と言ってもらうこと。
そういうお店は、自然とお客様にも愛されるお店になっていく。
そう信じています。



https://www.sej.co.jp/csr/sdgs/01_01.html
インタビューの続きはWEBで

従業員さんから

省人化設備の導入でできた時間で もっとお客様に寄り添っていきたい

セミセルフレジ（お会計セルフレジ）の
導入によって接客時に余裕が生まれ、
以前よりもお客様の声をきちんと聞ける
ようになりました。省人化設備導入によって
できた時間で、これまで以上にお客様に
喜んでいただける接客をめざします。



町田玉川学園5丁目店
廣田さん

TOPICS

環境負荷低減の取り組みとして 太陽光パネルを店舗に設置

セブン-イレブンでは、環境負荷低減の取
り組みとして太陽光パネルの設置を進め
ています。発電した電力をすべて店舗で使
用し、電力会社から購入する電力を減らす
ことで、電気代とCO₂排出量の削減につな
がっています。2020年2月末現在で8,074
店に設置し、今後も設置店舗を拡大して
いく予定です。

加盟店とともに成長を遂げるため “お店の個性”に寄り添える人財を育成

本部とオーナー様との持続的な成長に向
けて、店舗経営に関わる本部社員約3,300
人を対象とした人事評価制度の抜本的な
改革を実施しました。この制度では、個店
ごとの立地や客層に応じた経営計画「個
店行為計画」の進捗などを重視しており、
オーナー様とOFCが「お客様から愛される
お店づくり」をめざし、売上・利益の向上を
めざします。

専用工場では「CSR監査」を実施し サプライチェーン管理を推進

2016年から、米飯・サンドイッチ・麺類・惣
菜・パンなどのオリジナル商品を製造して
いるお取引先の工場を対象にCSR監査を
実施しています。CSR監査は、専用工場の
法令遵守、人権、労働環境、労働安全衛生、
環境保全などを第三者機関が審査し、課題
があった場合は是正を図っていくものです。
このように、人権や労働環境、環境保全
など、サプライチェーンで継続した取り組み
を進めています。

セブン-イレブンの取り組み

お客様も使いやすく、従業員さんも働きやすい店舗を追求

生産年齢人口が減少するなか、従業員さんが働きやすい環境をつくり、生産性を向上することは
経営上の重要な課題です。そこでセブン-イレブンは、お店の作業負荷・時間を軽減しながら業務を
効率化するために、2019年3月「省人化プロジェクト」を発足し、セブン-イレブン町田玉川学園5丁
目店で実証実験を開始しました。店舗では、作業に要する時間や従業員さんの動線・移動距離の
分析データをもとに、省力化・省人化を目的として開発された設備の試験導入や、店舗運営の効率
化を実現する店舗設計を実施しました。セミセルフレジ等の新設備の導入と同時に業務の実施方法
も見直して省力化・省人化を図っています。2020年6月現在、実験店舗は5店舗に広がり、各店舗で
プロジェクトメンバーが従業員さんとともに持続可能なお店づくりを追求しています。

地域社会との共生へ



「地域社会のサステナビリティ」を追求することで、全国各地に約2万店を展開するセブン-イレブンならではの社会的責任を果たしていきます。



取締役 専務執行役員
管理本部長・
企画本部管掌・海外事業本部管掌 **木村 成樹**

お店の皆さまとともに



人や社会が抱える課題に誠実に対応していくことが持続可能な成長へとつながっていく。「近くて便利な社会インフラ」であり続けるために、お店の皆さまとともに一つひとつ課題を解決していきます。



取締役 常務執行役員
オペレーション本部長 **野田 静真**

CO₂削減目標の達成に向けて



実験店舗から導き出した成果を結集し、経済合理性のある持続可能な新たなスキームを構築することで、ひとと環境にやさしい店舗を普及させていきます。



取締役 常務執行役員
リクルート本部長・建築設備本部管掌 **大橋 尚司**

エンゲージメントを通じて



多様な人財が個々に秘めた潜在能力を発揮できる組織づくりと、自律分散的な人づくりをすることにより、エンゲージメントの向上をめざします。



取締役 常務執行役員
人事本部長・秘書室長 **藤本 圭子**

役員
メッセージ

皆さまとともに。 今日の一歩を未来へ。



商品開発を通じて



お客様に「新しい価値」を感じていただくために、「おいしさ」「安全・安心」を徹底追求するとともに、フードロスや環境問題など、商品を通じた社会課題解決に取り組んでいきます。



取締役 執行役員
商品本部長 **高橋 広隆**

加盟店の持続的な成長のために



「加盟店の持続的な成長」というミッションを果たすために、「経済・環境・社会」への影響を判断基準としながら「短・中・長期」の経営施策を立案していきます。



執行役員
企画本部長・海外事業本部長 **阿部 真治**

サプライチェーン全体の質向上へ



お客様に豊かで健康的な生活を提供できるよう安全・安心を追求するとともに、地域社会や環境に配慮したサプライチェーンを構築していきます。



執行役員
QC・物流管理本部長 **青山 誠一**

社員とともに



会計改革で「完全ペーパーレス」に挑戦。人にも地球環境にもやさしい、サステナブルな働き方を追求していきます。



執行役員
フランチャイズ会計本部長 **西 和美**



Z世代が提案する “コンビニのこれから”

これから私たちはどのようなセブン-イレブンをめざしていくべきなのか—そのヒントを探るべく、Z世代(1990年代後半から2000年生まれの世代)のコミュニティ「イノベーションチームdot」に協力を依頼。大学生5名を招き、セブン-イレブンが取り組んでいる活動の感想や将来像について、自由に語り合ってもらいました。

「イノベーションチームdot」とは？

2017年に学生チームから会社化した「株式会社dot」による未来型の組織「イノベーションチームdot」は、約120名のアクティブな学生によるZ世代コミュニティ。企業のテーマに沿って課題解決や新商品開発の提案をする「Z世代会議」やイラストを使ってリアルタイムに議事録する「グラレコ(グラフィックレコーディング)」などを展開している。

Part 1 セブン-イレブンは、どんなイメージ？

●コンビニのサステナブル、社会貢献は良いイメージ？



●セブン-イレブンが社会貢献してること知ってた？どう思った？



セブン-イレブンの歴史やそのなかで取り組んできたサステナブルな取り組みを紹介。すると「活動内容は良い」という意見が多かった一方、「やっていて当たり前」「お客様側も巻き込むような工夫がほしい」「全然知らなかった。もっと積極的に情報発信してほしい」との意見もありました。

さくひなちゃん 大学3年生



サステナブルな取り組みは今やどの企業もやっている。だから、セブン-イレブンを使っているお客さん、なかでも環境への意識があまりない人たちがうまく取り込めたらもっとよくなるのでは？

ぐんまちゃん 大学2年生



コンビニエンスストアの食品廃棄の問題はよく聞けれど、セブン-イレブンはお客さんと一緒に取り組もうとしているのが好印象！

ミヒちゃん 大学2年生



エシカルプロジェクトに私も協力したい！例えば、すべてのお店にあるお弁当の消費期限などをセブン-イレブンアプリなどで情報発信してくれたら、もっと食品ロスをなくすお手伝いができるかも！

Part 2 これからのコンビニは、どうなってほしい？

●場所・商品・接客・サービスはどう変わっている？

●未来の「超サステナブルコンビニ」、どんな姿？



コンビニエンスストアの将来像については、「スマートな社会をめざしつつ、従業員さんのあたたかみを残してほしい」「地域ごとの特徴あるお店を増やしてほしい」との意見のほか、商品の容器を集めてリサイクルするアイデアやプラスチックをできるだけ使わない量り売りなど、Z世代の環境への高い意識がうかがえました。

24時間営業が当たり前になっているなか、従業員さんの負担を減らすために無人店舗の実験もされているけれど、どんなに便利になっても従業員さんの「あたたかみ」は残してほしい！



ざわちゃん 大学2年生



りこちゃん 大学3年生

マイボトルとかマイ箸とかを使っている人も増えてきた。セブン-イレブンでもおかずの量り売りやマイボトルを使った飲み物の販売を始めてくれると、プラスチックを使う機会がぐっと減るのでは？



オンラインで意見交換しました

サステナビリティ推進室 担当チームより

当日は、私たちが想像もしていなかったようなさまざまなアイデアやご意見をZ世代の方たちにいただき、貴重な時間となりました。いただいたご意見やアイデアの一つひとつを今後の取り組みに活かしていきます。

セブン&アイグループの環境宣言『GREEN CHALLENGE 2050』では4つのテーマで2030年、2050年のめざす姿と達成目標を掲げています。豊かな地球環境を未来世代につないでいくため、グループ一丸となって環境負荷の低減に取り組んでいきます。



1 CO₂排出量削減



グループの店舗運営に伴う排出量
(2013年度比)



自社の排出量のみならず、サプライチェーン全体で削減をめざします。

2 プラスチック対策



プラスチック製レジ袋の使用量



紙などの持続可能な天然素材にすることをめざします。

オリジナル商品で使用する容器を環境配慮型素材に切り替え



3 食品ロス・食品リサイクル対策



食品廃棄物の削減
発生原単位(売上当たりの発生量・2013年度比)



食品廃棄物のリサイクル率



4 持続可能な調達



オリジナル商品で使用する食品原材料を持続可能性が担保された食品原材料に切り替え



※ オリジナル商品にはセブンプレミアムを含む

全国約21,000のお店とともに
社会の課題と向き合い、
持続的な成長の喜びを分かち合う。
その責任の大きさを認識しながら
活動を進化させていきます。

セブン-イレブン ミニ知識

国内47都道府県に
20,955店
(2020年2月期)

1店当たりの1日お客数
1,006人
(2020年2月期)

製造工場
全国**181**拠点
(専用工場・全国168拠点)
(2020年2月末現在)

世界の17の国と地域で
71,599店
(2020年6月末現在/日本は8月末現在)

2019年に発売された新商品
約**5,200**アイテム

食品※の販売構成比
69.7%
(2020年2月期)
※ 加工食品、ファスト・フード、日配食品

名称	株式会社セブン-イレブン・ジャパン	資本金	172億円
本社所在地	〒102-8455 東京都千代田区二番町8番地8	社員数	8,959人(2020年2月末現在)
代表取締役社長	永松 文彦	チェーン全店売上(国内)	5兆102億73百万円 (2020年2月期)
設立	1973年11月20日		



本冊子の感想をお寄せください

アンケートフォームはこちら

より詳細な取り組みはWEBをご覧ください



CSR | セブン-イレブンへ近くて便利～
<https://www.sej.co.jp/csr.html>

発行年月：2020年10月 発行者：株式会社セブン-イレブン・ジャパン サステナビリティ推進室 企画・制作：株式会社ブレンセンター